

(公財) 立教志塾 9 月研修会

私たちの暮らしに寄り添い、豊かな心を育んできた地域の 自然や伝統文化を、未来の子どもたちに伝えたい。

「歴史的な風景や遺構は、その都市や地域の社会的・文化的蓄積、人々の心象を如実に表現し、公共的空間イメージ・共同体意識の基盤となる。地域の人々が積み重ねた努力や精神性、経験や技術そのものが地域の誇りや知恵となり次世代を支える」と黒石先生はおっしゃっています。

大河ドラマ「べらぼう」で、天明の大飢饉の反省から、松平定信公の義倉・社倉の施策が出てくると思いますが、米備蓄についてもお話しいただけます。



【講師略歴】秋田県生まれ。東大工学部建築学科卒、同大学院工学研究科建築学専攻修士課程・博士課程修了。ペンシルベニア大芸術学部大学院建築学専攻博士課程修了(Ph. D.)。今和次郎を中心に日本の近現代都市や建築文化とデザインの歴史を、生活の場の意味と変容の視点から幅広く研究する。青山学院大総合文化政策学部教授を経て、現在は福島学院大マネジメント学部教授。東京ビエンナーレ 2025 では「さんぽアートマッププロジェクト」を主導する。主著に『建築外の思考：今和次郎論』（ドメス出版）、共著に『時間の中のまちづくり—歴史的な環境の意味を問いなおす』（鹿島出版会）などがある。

日 時：令和 7 年 9 月 29 日（月）午後 6 時 30 分

会 場：白河商工会議所 会議室

講 師：福島学院大学教授

黒 石 い ず み 先生

演 題：「地域の文化遺産を未来へ」

参加費：500 円

問合せ先 立教志塾 0248-23-1427

共 催：公益財団法人 立教志塾、白河ユネスコ協会

後 援：福島県建築士会白河支部、
白河市、白河市教育委員会